教育基盤　インクルーシブ教育システム構築

「校長を中心に障がいのある幼児児童生徒の能力や可能性を最大限に伸ばし自立や社会参加することができるよう、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導及び必要な支援の充実に努める」。この方針のもと、山鹿市は、文部科学省の委託を受け、市内6中学校区をモデル地域として、インクルーシブ教育システム構築に向けて取り組んできた。

すまいる連絡会

鹿北子育て支援センター主催で、毎月1回開催。参加者は、保育園長、主任児童員、保健師、小・中学校職員、合理的配慮協力員など。保・小・中にわたって兄弟姉妹がいる場合の家族支援の協力体制づくり。子どもたちの家庭環境や育ちの情報交換。0歳からの情報共有。

移行支援シート

移行支援シートの活用（全員分を保育園から小学校へ持ち上げていく）

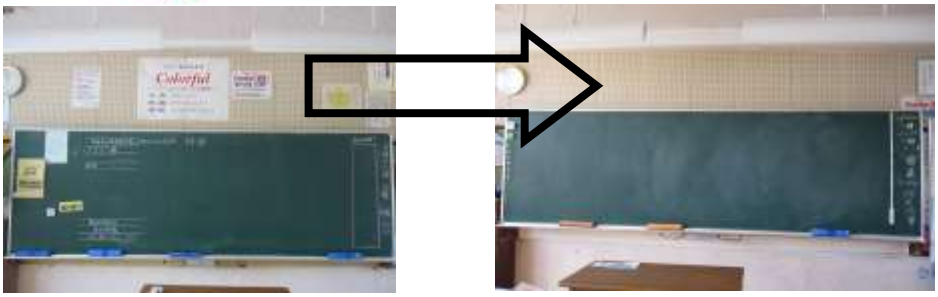
移行支援シートを作成して終わるのではなく、合理的配慮が次の段階に適切に移行されていくように、計画的に移行支援会議を開催している。

合理的配慮の提供

支援が必要な子どもへの、可能な限りの支援を行っている。たとえば、難聴の生徒がいる場合には、イスの脚にテニスボールをつけ、音が出ないようにする合理的配慮を行う。合理的配慮は支援が必要な子どものためだけでなく、結果的には、すべての子どもにとってプラスになる取組。

ストラテジーシートの活用

応用行動分析を生かしたケース会議。「こんなこともある、あんなこともある・・・」など、たくさんの事例が出される。それらの行動が一つに絞られて解決策について具体的に考えられる。共通理解と共通実践が同時にでき、役割分担を決めやすいことなどから、すぐに実践に生かすことができる。



ケース会議後、黒板上の掲示物を撤去し、授業に集中しやすいよう環境整備。

だれもが教育活動に参加できる
だれもが社会的自立に向けて学べる

➡ **鹿北の教育基盤**